



三木高大 自治会新聞

令和3年 3月号 (NO170)

発行 三木市高齢者大学学生自治会
発行責任者 自治会会長 岡田 修
編集者 自治会新聞編集委員会
発行日 2021(令和3)年3月9日
<http://koureisyadaigaku.cccp.jp>

高大の思い出

読まなびの郷みずほ

平成29年4月6日木曜日(午前10時)高大の体育館に集合して入学させていただきましたのが昨日のこのようです。

人間は高齢になる程、年月の流れを早く感じるといいますが、まさにその通りです。これまでの70年の人生で4年間にこんなに早く感じたことは初めてです。不安な気持ちがいっぱいで、入学したのですが、同学年や同班の人と話し合いで、皆さんが同じ気持ちであることを知り、気分が楽になりました。

入学して午前の教養課程は、「高齢者の生きがい・特殊詐欺に騙されない方法・五感を磨いて若返り」等、今後の人生に必要なことばかりでした。

午後の専門課程では、私は四年間文化学科の古典を受講させていただきました。講師の黒田久美先生はユニークで最高でした。「源氏物語・平家物語・古事記」若い頃は、一番嫌いだった古典に魅力を感じ興味が湧き、今も時間があれば図書館に行き古文書などを調べております。



大学行事では、5月のスポーツデー(グラウンド・ゴルフ大会)で、生まれてはじめての

ホールインワンが出た時は最高の気分でした。9月の体育祭では10代に戻った気分で競い、また応援合戦の「70歳のエグザイル」が楽しかったです。

4年生の時はコロナ禍の影響で、緊急事態宣言が発令され全ての行事が中止になったことが残念ですが、この四年間は私の人生で最高でした。卒業後も高大の友として生涯お付き合いをしたいです。



皆さんありがとうございました。今後とも健康優先で過ごしましょう。
事務局の皆さんお世話になりました。

4年4班 赤井 奇雄

卒業生に贈る言葉



大学入学に胸を躍らせ校門を通ったのは、ついこのあいだのこの様な気がします。

大学を卒業される四年生の皆様おめでとうございます。

在校生後輩一同心よりお祝い申し上げます。卒業される皆様方は、仕事、病気、家族のことなど、色々な悩みを抱えながら通学されたこの四年間を、どの様に振り返っておられることでしょうか。多くの方々との関わり出逢いの中で、様々な思い出を築き上げてられたと思います。何時も私達後輩にお手本となって下さって、子は親の背を見て育つと、聞きますが、先輩方の背中には私達にかけがえのないものを残して下さいました。

一番記憶に残っているのは、私にとって二年生の体育祭です。手取り足取り最後までお付き合いくださり、優勝迄導いて下さいました。私達には昨日のこの様に記憶に残っています。慈愛、勇気助け合い、尊敬、計り知れない虹夢のような物語を、持ち合わせている先輩方に見えました。

常に先頭に立ちリーダーシップを発揮して下さいました先輩方とお別れするのは寂しいことですが、先輩方が築いて下さった伝統を受け継ぎ後輩に伝えてゆくのが私達の使命と受け止め日々精進してまいります。

3年1班 井川 洋美

専門講座（郷土史）

まなびの郷がある細川町は、儒学者藤原惺窩の生誕地であり冷泉領でもあった。

また三木の地名は、四世紀中期の天皇が此の地に来られ高台の原野に休まれ、地元の集落の者が土器に入れた地酒を献上した時、美味しい酒に皇后が大層喜ばれ、此の地の地名が酒壺(みき)になりました。後々に三木になったが、三本の木の地名では無いとのこと。

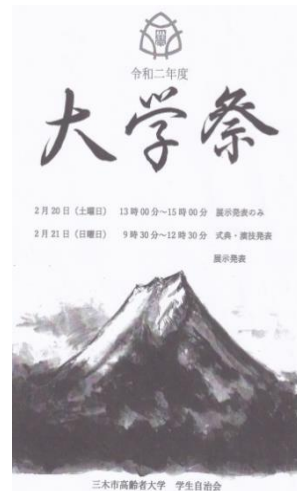
三木市においては、三木市史編さんが教育委員会から総務部に移管されたことに伴い、市史編さん室が、また三木市立みき歴史資料館内に市史編さん整理室が設置されるとともに、神戸大学との連携事業で、新三木市史地域編『口吉川の歴史』の発刊に伴い、他の地域編も順次発刊されるので期待したいと思います。

三木市高齢者大学の岩波孝昭前学長が、三木市文化会館にて『惜しきものこそ』の演劇で、郷土が生んだ小川庄小野好古役を、凛々しく矍鑠とした姿で演じられました。大いに感銘を受け、故郷に愛着を感じると共に、此の地で生まれ育ったことに感謝感謝です。

三木に住んでいる私達は、三木の深い歴史を訪ねるのに、美囊郡誌・三木市史および播磨風土記を紐解くと共に、三木市高齢者大学では郷土史を専攻し、講師の宮田逸民先生また田中隆次先生方々からの資料またスライドによる講座および課外研修で、三木の郷土のルーツを知り、『古きを訪ねて、新しきを知る！』を通じて、郷土のことを再認識・再確認し、明日への糧になることを信じたいと思います。



4年3班 安福 哲



自治会から、今期は新型コロナウイルス感染拡大で、大学でのほとんどの行事が出来ず、是非とも最後の大学祭は開催したいので、可能な形で実施してもらいたいとの要請を受け、実行委員会では2つの面から提案致しました。(心理面と物理面)

1. 学生の皆様に納得して頂ける開催条件

自治会とも相談し、学生やご家族の中には、高齢で持病をお持ちの方々もいらっしゃる為、コロナ禍での大学祭の開催に、不安をお持ちの皆様にもご理解頂ける様、次の様な開催条件と致しました。

- ① 国又は兵庫県にて『緊急事態宣言』等が発出されていないこと。
- ② 三木市高齢者大学で新型コロナウイルス感染者が出ていないこと。
- ③ その他、三木市での新型コロナウイルス感染状況を勘案し判断する。

2. 具体的な感染防止対策

自治会新聞 1月号「大学祭のご案内」でもご報告致しました通り、感染防止対策に対しては、比較的多くの方々のご理解を頂いておりました。

更に、1月からは、参加者全員の検温も開始するべく準備を進めていたところですが、1月13日より兵庫県でも『緊急事態宣言』が発出されました。

3. 分科会や各クラブの皆様の準備・練習・ご協力

① 大学祭の時間短縮

演技発表部門のクラブや分科会(司会進行・式典会場)の皆様には、例年とは異なり、演技時間の短縮や参加の自粛(コーラス部)等のご協力頂きました結果、12時30分には、終了し弁当もお持ち帰り頂けることとなりました。

演技練習も夫々のクラブで、3密を避ける工夫をして励んでおられました。

② 3箇所の昼食スペース

展示発表部門のクラブや分科会(展示会場・昼食室)の皆様には、昼食場所の確保の為、展示場所の変更・見送り(大学院・学友会)や提供(茶道部は展示のみとし、昼食場所の確保)展示方法の簡素化等にご協力頂き準備もほぼ完了していました。

③ コロナ対策室

1月からは参加者全員の検温の開始や換気、消毒等準備頂いておりました。

④ 弁当

分科会(弁当)や実行委員で試食もし、喜んでいただけるものを準備していました。

⑤ 駐車場

分科会(駐車)人数確認もほぼ完了していました。

自治会会長・役員始め、実行委員、演技発表部門のクラブ、展示発表部門のクラブ、各分科会、表紙の字や絵を描いて頂いた皆様の準備・練習・ご協力にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

皆様の準備や練習が、次の大学祭につながります様に!!!



大学祭実行委員長 3年1班 尾崎 通昭

新型コロナウイルスの自宅自粛生活如何おすごしですか。

高大ではいろんな行事が中止になり、これだけはやって欲しいと期待していた大学祭、「緊急事態宣言」が発令されるなか1月22日の役員会で中止が決定しました。実施の方向で準備していたので残念でしたが、役員員の勇気ある決断だと思いました。



「人生夢の如し」と申しますが、人の一生は儚く過ぎればアツと言う間です。人生死ぬまで勉強です。還暦・古希を過ぎればやり残したことを思い出してもう一度やりたかったこと・趣味などに挑戦しよう。最近、フレイル(虚弱)問題が注目されています。フレイルとは健康な状態と要介護状態の中間で、身体機能、認知機能の低下が見られる状態です。

フレイルの予防は ①運動機能回復 ②社会的な交流に参加する ③筋力を鍛える、歩く距離を延ばす ④食事はたんぱく質、カルシウムを摂取する ⑤社会とのつながり、外出して人と接する機会を増やす、家に閉じこもらない事などがあります。

高大ではいろんな行事は中止となっていますが、3年生では1カ月に2回程度公園でグラウンド・ゴルフの練習、わいわいがやがや楽しいひと時です。また、先日の学年集会では連絡時間の後に輪投げ大会、班別・個人戦を開催し家庭用品の賞品で大いに盛り上がり親睦を深めました。

高大に来られている方は健康で・経済的また家庭の理解などに恵まれています。入学したくても出来ない人が沢山います。我々は素晴らしい仲間にも恵まれ有意義な学生生活を送っています。感謝!

3年2組 岸田 雅治

ひろば

卒業文集の作成にあたり、50年以上に及ぶ社会生活を振り返って見た。現地工事が長く、約25年間、海外は20年でその内インドネシア(以後稲国と記す)がおおよそ12年間だった。

その稲国は赤道直下に位置し、13,000もの島から成り、東西3,000kmにも及び人種も言葉も雑多で、日本の2倍を数える人口の9割以上がイスラム教徒。夜明け前の行水とお祈りから毎日が始まるので、仕事は7時~16時の工場が多い様だった。

日本では「その地の水に馴れて早く溶け込め」とも言うが、東南アジアではこれではダメ。人種・宗教・言葉・習慣が異なる社会では、いかにお互いの違いを認識し認め合って自分の個性とカラーを出すかが大切です。

稲国の習慣では椅子に浅く掛け、宴会には20~30分おそく、物を指すのは親指で、そして不浄な左手は極力隠して等々。日本の言葉で一番困るのは、あれが終わった?、OK?、そして机を叩く、椅子を蹴る仕種、稲国人が一番嫌うのは、人前で怒られることと、知らないと言うことで、役職者に顕著です。

主食は米で、肉といえばニワトリ。焼飯・焼トリ・焼ソバはどこでも有り、果物はマンゴ・ドリアン・パイナップル・マンギス等々。そして何と言っても都市近郊ではゴルフ場の多さで、主都ジャカルタ近郊では60ヶ所に及び、その内40近くはプレーを楽しんだ。放っておくと本が一冊書けそうなので、この辺で止めます。

4年4班 渡邊 洽